とかち新聞
主筆 松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1カ月300円　カ年前納の場合3,000円

狩猟を売り出す

陸別町の過疎振興対策

陸別町議会の才三回臨時会は八月三十一日午前十時にひらき（高橋一吉、西野一郎、佐々木茂雄の三議員が欠席）会期を一日とするただちに議案に入り、陸別町猟区設定条例案を提出しました。

これは「鳥獣保護および狩猟に関する法律」にもとずいて設定するもので

一、猟区は川上、小利別、熊の沢、日宗、利上、林内のうち規程で定める区域

二、期間は環境庁の認可の日から六十一年九月まで

三、猟区の維持管理に管理者、職員、巡視人をおく

四、入猟承認料は一日七千円とし二日前に納入する

五、町長は狩猟鳥獣の生息繁殖に必要な施設を設けキジなどの放鳥事業をおこない、危害防止、保護繁殖のため狩猟禁止区域を設けることができる

六、町長は農作物、立木その他に損害を生じた場合は損害を賠償する

七、町長は猟区における違反行為、詐偽、不正行為に過料を科することになっています。

つづいてこのために一般会計予算補正案を提出して入猟承認料として七人分、四十二日間、二百五万八千四の収入を見込んで

▲猟区標示板二〇、案内板二〇、発砲禁止板一〇〇▲放鳥用コウライキジ四四〇羽

▲臨時事務員、巡視人、標示板設置人夫賃金

などを計上しました。

これまで鹿の捕獲に町内旅館の調査でも年間四百人以上が来町しており、猟区の設定によって全国的にPRすればかなりの狩猟愛好家が来町することが期待されて、このチャウカリした〝狩猟商法〟ぶりが注目されます。

ゴミ処理の民営を決定

ついで厚生委員会に付託されていた陸別清掃社星宏道氏からのゴミ収集業務の民営委託の陳情について、林保治委員長から陳情どおりに採択すべきものと決定したとの報告に対して、町営から民営にうつすのはサービス低下のおそれがあるし、調査が不充分だとして異議が出て討論、採決となり、新藤万亀男、矢鋪正信池尻英治議員が反対、渡辺平吉、鹿野竹男議員が賛成の立場でそれぞれ意見を述べ合い九対五と賛成多数で報告どおりに決定しました

このあと監査委員から定期監査の報告があって、このなかで五十年度補助団体の一部には、すでに会計年度を三カ月以上も経過しているのに事業実績報告書を未提出のものがあり、特に教育費のなかの補助、交付金として郷土芸能事業三十万円、文化協会五十二万二千円、体育連盟七十一万九千円はいずれも比較的多額にもかかわらず実績報告がなく、従って成果の認定もおこなわれていない

一部の団体ではあるが、剰余金を積立金として支出して保有しているのは留意すべきで、補助金をうけた団体が傘下団体に補助・交付することは趣旨にそわない

との指摘があり、ついで杉田町長から三五線沢の道々昇格や足寄高校の間口増の陳情、中学校統合問題で中斗満地区代表者との話し合いなどについて行政報告があって、午後三時すぎに閉会しました。

ニュースを斬る

自民党の分裂

★…自民党の三分の二の国会議員が臨時国会の前に三木総理・総裁の退陣を求めているのに対して、当の三木首相はあくまでも自らの手で臨時国会もそのあとの総選挙も推し進めようとしているので、この対立、抗争が収拾されないとすれば、いきおい多数派による議員総会での三木氏の総裁解任・党員除名の決議がおこなわれ、それでも退陣しなければ反三木派の関係十五名、党役員二百名の総引きあげの事態にして総選挙にかけて三木自民党と反三木自民党との決戦が濃厚。

★…そうなれば三木首相は三分の一の勢力のなかから閣僚と党役員を補充して臨時国会をひらいて強行突破をはかざる得なくなり そのうえで反三木派の協力が得られなければ解散・総選挙で国民の信を問うことになり、自民党は分裂。

★…これは最悪の場合のことですが、国民と国会をソッチのけにした党内の派閥争いに屈するよりは、イチかバチか「議会の子」と

★…自民党の三分の二百名の総引きあげの事態は三分の一の勢力のなかから閣僚と党役員を補充して臨時国会をひらいて強行突破をはかざる得なくなり そのうえで反三木派の協力が得られなければ解散・総選挙で国民の信を問うことになり、自民党は分裂。

★…これは最悪の場合のことですが、国民と国会をソッチのけにした党内の派閥争いに屈するよりは、イチかバチか「議会の子」と

★…それにしても保守一党独裁の政権があまりにも長すぎたので金権政治のボラプラがわいて自壊作用を招いた形で、保守が二つにわかれての総選挙となれば過去に例があるようにわずかの差で社会党が才一党にうかびあがることも考えられ、憲政の常道によって社会党を主体にした政権ができないとも限らず、それを覚悟したうえでの自民党の果てしなき派閥争い。

通学拒否さわぎのあと始末

審議会ひらく

足寄町立小学校ならびに中学校整備計画等審議会という長い名の会がこのほど公民館で発足しました。

委員には西小学校と東小学校校下の各自治会長の

横山喜三郎（西区）
日景健治（北区）
国見　進（南区）
湯浅義雄（中央区）
五十嵐定雄（中鳥町）
清水厚司（旭町）
山岸昭一（足寄・平和）
熊沢　清（中矢）
木村　中（下足寄）
甲斐重太郎（下愛冠）
大野耕太郎（同）
正木忠夫（鷲府）

学識経験者として

三宅太郎（高校長）
鷲岡俊昭（社教委員長）
伊藤純生（東区）

陶守哲夫（連P会長）

の十六氏が教育委員会から委嘱され、会長に鷲岡氏、会長代理に陶守氏を推して諮問事項の「東小学校と西小学校の学校規模を将来にわたって適正規模によって維持する方策について」の検討に入りました。

すでに両小学校の通学区域調整については本年三月の教育委員会の告示によって四月の新学期から実施されているので、いまさら適正規模云々を諮問するのもおかしなはなしで、教育委員会としては将来にわたって適正規模を維持できるものとしての自信と責任をもって告示し実施した筈ですが、当時、通学区域変更に反対して下愛冠の一部が登校拒否の実力行使によんだので、町議会の特別委員会が乗り出してこの実力行使を中止させるひとつの方法として通学区域変更についての諮問機関を設けることにしてその場をおさめたもので、おそまきながらいわば通学拒否さわぎのあと始末といった形。

この諮問について審議会としては十月ころをメドに答申をおえて解散ということになりそうですが、教育委員会が通学区域変更を実施する前の段階であればともかく、すでに告示どおりに区域変更が軌道に乗って児童もそれぞれの小学校になじんでうまくいっているのに、いまさらこれをいじって平地に波乱をおこすことはないというもの。

それよりも、反対派住民の条件として明年中に町が実現を約束した下愛冠から東小学校への通学専用道路の新設については、当の下愛冠住民のなかから、利別川の川べりに沿ってつくるのだからあまり近くならないし、人家もなく淋しいし寒いし雨や雪の日は困るし児童には有難くない道路になるのではないかと心配されており、町が何千万円もかけてつくったは利用されないのでは考えもので、この道路にしても審議会にしても、当時の反対運動の幕引きのためにリーダーのメンツを立てるその場の条件だったとすれば、あまりこだわることもなさそうですが。

祝
とかち新聞創刊
満二十週年記念

陸別町
町長　杉田　稔
助役　徳光孝夫
収入役　池田宗一
総務課長　荒木秀夫
企画課長　大橋雪雄
管財課長　宮川　寛
民生課長　檜森敬二郎
農林課長　原田博智
施設課長　加藤康夫

陸別町議会
議長　竹内千代蔵
副議長　松台国雄
総務文教委員長　矢鋪正信
産業建設委員長　西野一郎
厚生委員長　林　保治
議会運営委員長　渡辺平吉
事務局長　坂井一

陸別町教育委員会
委員長　平林英祐
委員　金沢エイ
同　西岡隆
同　竹岡史展
教育長　佐々木春志
同次長　江下広

陸別町監査委員
代表監査委員　吉田英一
監査委員　池尻英治

カメラ　八ミリ　写真材料
上野カメラ堂
上野興復
足寄町駅通り　T五一二五一二

新畳　表替　中古畳　フスマ張替
二段ベッド
敷物一式
マットレス
小林畳店
小林幸三郎
足寄町大通り山口整骨院前　T五一二四二八

霊きゅう車　葬儀仏具一式　花輪　生花
㊐自動車　新津はなや
足寄町西三区　T五一二六二六

赤外線焼付塗装ブース導入！
エナメル焼付塗装　オールUSA塗料使用
札幌陸運局認証　整備　板金　塗装
ムトウ自動車工業
足寄町　T五一二五七八　三七一九

家具と建材
信用は最大のサービス
技術と納期を誇る！
家具　建具　製造販売
住宅内装に新建材を！
佐藤家具建材店
足寄駅前　T五一二三二一番

西独スチールチェンソー全機種
震動防止（三G以下）認可記念景品仕特売実施
防震付刈払機各メーカー品
景品付特売中
日立　マキタ　東和　電動工具
機械の修理は誠実本位の当店へ！
造林用具
諸機械商
鈴木鋸刃物店
足寄町大通り　T五一二三〇七